

## 農村におけるつながりの価値・機能について

政策研究調整官 平形 和世

講師：福島慎太郎氏（農林水産政策研究所客員研究員，青山学院大学総合文化政策学部助教）

日時：平成28年2月10日（水）14時～16時

場所：農林水産政策研究所セミナー室

農林水産政策研究所は、平成25年度より、農業・農村の機能・価値を明らかにし、その維持・増進のあり方を検討することを目的として、プロジェクト研究「農業・農村の新たな価値・機能に関する研究」を実施しました。今日、地域のつながりの希薄化が指摘されますが、社会心理学的アプローチによる農村の社会的価値や機能についての解明はほとんど行われていません。

このため、本研究において、客員研究員である青山学院大学福島慎太郎助教、京都大学こころの未来研究センター内田由紀子准教授、滋賀大学竹村幸祐准教授が、農業社会、漁業社会におけるつながりに関して調査研究を実施しました。今般、福島助教にその内容について講演していただきましたので、ご紹介します。

## 1. はじめに

社会において、人と人とはつながっており、うまく活用すれば「力」になります。「力」としてのつながりを社会関係資本と呼びますが、特に、人と人との信頼関係、互酬性の規範、ネットワークが地域社会で果たす役割に関心が集まっています（Putnam, 1993）。比較文化研究から、西洋文化では、人々は相互に独立して存在するという独立的な人間観が共有されているのに対して、東洋文化では、人々は相互に切り離されず密接につながっているという協調的な人間観が共有されていることが分かっています（Markus and Kitayama, 1991）。そして、トルコのコミュニティを対象とした調査から、農業コミュニティ・漁業コミュニティでは、牧畜業コミュニティに比べて、つながり（関係性）に基づいた心理・行動傾向がより強いことが実証的に示されています（Uskul et al., 2008）。

我が国の農村・漁村においても、住民同士の緊密なつながりが形成されてきました。今回のセミナーでは、（1）農業者・漁業者のつながりにはどのような特徴があるのか、（2）そのつながりにはどのような効果を持つのか、そして（3）つながりの形成に対してコーディネーターはどのような機能を果たすのか、という問いを検討するために、農業者・漁

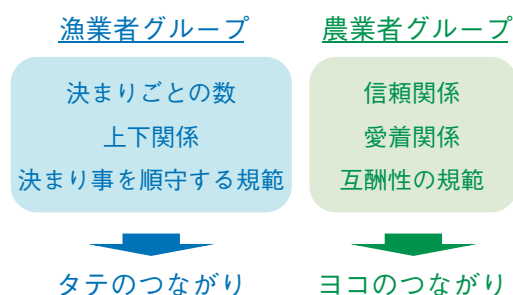
業者グループのリーダー・普及指導員を対象にして行った調査研究の結果を紹介しました。また、（4）非農業者を含む農村コミュニティ全体の風土としてのつながりの特徴について検討を行い、（5）現代の農業社会に浮かび上がる課題を提示しました。

## 2. 調査研究の概要

## （1）農業者・漁業者のつながりの特徴

農業者・漁業者グループを対象に、6種類のつながりの特徴を調べたところ、農業者グループには「信頼関係」「愛着関係」「互酬性の規範」といった特徴が、漁業者グループには「決まりごとの数」「上下関係」「決まり事を順守する規範」といった特徴が浮かび上がりました。漁業者グループにおいて特徴的であったつながりは、いずれもメンバーの秩序を統制する社会規則や制度・規範に基づいており、「タテのつながり」としてまとめられます。一方、農業者グループに特徴的であったつながりは、いずれもメンバーの対等で心理的な結びつきに基づいており、「ヨコのつながり」としてまとめられます。

## 農業者・漁業者のつながりの特徴



## （2）つながりの効果

（1）で確認された「タテのつながり」「ヨコのつながり」は、それぞれのメンバーである農業者・漁業者の幸福感や資源管理への参加とどのように関連しているのかを検討しました。分析の結果、幸福感や資源管理への参加と有意な正の相関を有していたのは「ヨコのつながり」であり、この相関は、農業者グループ・漁業者グループを問わず、共通して見られました。

### (3) つなかりに資するコーディネーターの機能

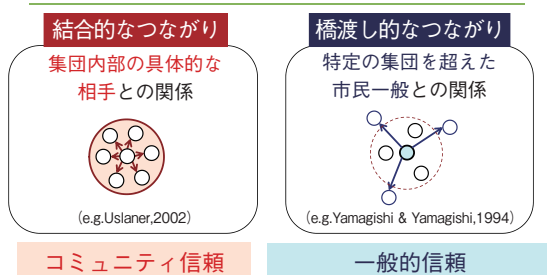
(2) で、「ヨコのつながり」がメンバーの幸福感や資源管理への参加と正に相関していることが分かりましたが、このような「ヨコのつながり」は自然と形成されるものだけではなく、人と人をつなぐコーディネーターがいることで形成が促進されると考え、普及指導員の役割に着目しました。

普及指導員は、農業・漁業に関する高度な技術や技術に関する知識の普及指導を行う機能（スペシャリスト機能）を果たすとともに、多様な関係者や組織との連携の下、課題に対応するための方策の策定・実施等を支援する機能（コーディネート機能）を果たしています（内田・竹村，2012）。そこで、タテ・ヨコのつながりと普及員のコーディネート機能との関係を検証しました。普及指導員との交流が高頻度（月1回程度以上）と低頻度（年に数回程度以下）に分けて分析したところ、「タテのつながり」は普及指導員との交流と関連しませんでした。一方、「ヨコのつながり」は農業でも漁業でも、普及指導員との交流頻度が高い方が強いという関連が見られました。

### (4) 農村風土としてのつながり

農村は農業者だけから成り立っているわけではなく、非農業者も含めた地域全体が「農村」として捉えられます。そこで、農村コミュニティにおいてどのようなつながりがどのように形成されているかを検証しました。ここでは、コミュニティ内部の結合的つながり（コミュニティ信頼）と、コミュニティを越えた橋渡しのつながり（一般的信頼）の違い（Strugis and Smith, 2010）に注目しました。

#### 結合的なつながり・橋渡しのつながり



つながりの強さは個人によって様々です。一方、地域単位でのつながりの強さを調べると、コミュニティ信頼は地域としての固有性を持つ（コミュニティ信頼が高い地域とそうでない地域がある）一方で、一般的信頼は地域単位の固有性は持ちませんでした。続いて、地域の風土としてのコミュニティ信頼は、どのような地域（集落）で形成されているのかを調べました。地域の特徴は、農家戸数比率、農業地域類型、寄合への参加世帯層で捉え、これらとコミュニティ信頼との関連を分析しました。その結果、農家戸数比率が高い地域ほどコミュニティ信頼が高くなる傾向（50%超で高止まり）、都市的地域、

平地農業地域、中間農業地域、山間農業地域の順でコミュニティ信頼が高くなる傾向、農家のみでなく、農家以外の世帯も参加する寄合が多い地域ほどコミュニティ信頼が高くなる傾向が見られました。

#### 地域単位のつながり

| 類型項目                | 類型区分  | 集落数 | 肯定的な回答 (%) |          |
|---------------------|-------|-----|------------|----------|
|                     |       |     | 一般的信頼      | コミュニティ信頼 |
| 農家戸数比率 (%)          | ～22   | 46  | 39.4       | 42.3***  |
|                     | 23～49 | 103 | 39.1       | 51.3     |
|                     | 50～66 | 130 | 40.4       | 60.2     |
|                     | 67～   | 161 | 38.0       | 59.9     |
| 農業地域類型              | 都市的   | 84  | 40.5       | 43.7***  |
|                     | 平地農業  | 24  | 40.8       | 54.0     |
|                     | 中間農業  | 143 | 39.0       | 55.0     |
|                     | 山間農業  | 189 | 37.9       | 60.3     |
| 寄合への参加世帯層 (全戸＝農家のみ) | ～0    | 90  | 40.2       | 49.1***  |
|                     | 1～2   | 110 | 39.0       | 49.6     |
|                     | 3～4   | 134 | 37.6       | 57.0     |
|                     | 5～    | 106 | 40.4       | 61.3     |

✓ 農業地域・中山間地域、住民全体が寄り合いに参加する地域でコミュニティ信頼が高い

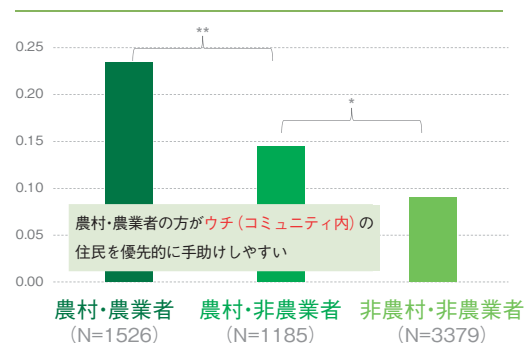
### (5) 農村コミュニティの課題

(4) から、農村コミュニティ内部における信頼関係は農村風土として形成されている一方で、コミュニティを越えた他者一般との信頼関係は必ずしも農村風土としては形成されていないことが分かりました。

次に、農業社会における手助けは、コミュニティ内部の手助け（ウチの手助け）に閉じられずに、地域コミュニティを越えた見知らぬ他者に対する手助け（ソトの手助け）に開かれているかどうかを検討しました。

分析の結果、農村における農業者の方が農村における非農業者よりも、そして農村における非農業者の方が非農村における非農業者よりも、コミュニティ内部の住民を優先的に手助けしやすいことが示されました。

#### ウチとソトでの手助け



情報化に伴う地域のボーダレス化が進む中で、我が国の農村は、特徴である農村的なコミュニティを維持しながら、公共的なつながりも築いていくことが課題であると思われます。こうした社会的課題に焦点を当て、日本社会のさらなる発展に寄与する施策へと結びつけていくことが重要と考えています。

注：調査の概要、講演資料につきましては、こちらをご覧ください。

[http://www.maff.go.jp/primaff/meeting/kaisai/2015/pdf/20160210\\_01.pdf](http://www.maff.go.jp/primaff/meeting/kaisai/2015/pdf/20160210_01.pdf)